

福井県里山里海湖研究所 中期計画 2023～2028

令和5年3月

福井県里山里海湖研究所

福井県里山里海湖研究所中期計画 目次

1 福井県の里山里海湖について-----	P 1
2 基本理念-----	P 3
(1) 生物多様性 (Bio - diversity)	
(2) 生活多様性 (Lifestyle - diversity)	
(3) 経済多様性 (Economy - diversity)	
(4) 景観多様性 (Landscape - diversity)	
3 活動および運営の方針-----	P 4
○研究 【地域に貢献する実学研究 (Science for society)】	
○教育・普及【里山里海湖を「体験」し、「感性」を育む】	
○実践 【次世代につながる持続可能な里山里海湖の保全・再生・活用】	
4 中期計画の目標-----	P 5
○研究に関する目標	
○教育・普及に関する目標	
○実践に関する目標	
5 目標を達成するための具体的な施策-----	P 6
(1) 研究に関する具体的施策	
(2) 教育・普及に関する具体的施策	
(3) 実践に関する具体的施策	
6 組織-----	P10

1 福井県の里山里海湖について

(1) 福井県の里山里海湖の特徴

本県は、豊かな降水量と四季の変化に富んだ気候に加え、水源となる豊かな広葉樹林、複雑に入り組んだ谷筋、豊かな土壌といった自然条件にも恵まれ、古くから、二次林と水田の入り混じった、いわゆる「里山」が形成されてきた。

加えて、比較的狭い地域の中に、山、里、川、海、湖など多様な自然環境があり、そこには地域固有の生物多様性が維持されるとともに、典型的な日本の里山里海湖風景が凝縮されている。

また、米・そば・水産物等里山里海湖に培われた食材、和紙・漆器等里山里海湖の素材を活かした工芸品、県内各地に伝わる自然を敬う祭礼・習俗等、本県独自の豊かな里山里海湖の恵みや文化も存在している。

(2) 里山里海湖の現状と課題

本県の豊かな自然環境と生物多様性が維持されている里山里海湖は、人々が適切に手を加えることにより守られてきた。しかし、近年、生活スタイルの変化による人と自然の関わりの希薄化や、人口減少・高齢化などによる人間活動の低下にともない、里山里海湖の利用や管理が適正に行われなくなり、トンボ、チョウ、メダカなど身近な生きものの生息・生育環境が失われつつある。

このため、里山里海湖の保全、再生の重要性を学ぶため自然体験活動を推進するとともに、自然再生活動が進められてきた。しかし、これらの団体の担い手の減少や高齢化が進んでいることから、新たな人材や自然再生団体の確保、育成を進めていくことが必要である。

また、人間活動の低下による野生鳥獣の生息域が拡大してきたことにより、農林水産業や生活環境などへの被害が深刻化している。このため、鳥獣やその生息環境の管理などの対策を継続的に実施していくことが必要である。

(3) 福井県里山里海湖研究所の取組

里山里海湖研究所は、これからも里山里海湖の保全、再生、活用を行うため、研究、教育・普及、実践活動の3つを柱として活動を続ける。

研究所は、平成25年10月に開所してから、県民のため、社会のため、実社会に役立つ研究を行い、美しい風土を残しながら福井という地域みんなが元気になることを目指している。

これまで、研究においては、環境考古、保全生態、森里川海連環、里地里山文化の各分野において、三方五湖、北潟湖などの地域の課題の解決に向けた研究を行い、研究成果の一部が里山里海湖資源を活用した経済活動に結びつくなど、地域活性化に寄与してきた。

教育・普及においては、福井ふるさと学びの森・海湖活動団体を増やし、また、里山里海湖学校教育プログラムなどによる環境教育やふるさと教育を実施することにより、里山里海湖の恵みに触れる機会を提供してきた。

実践活動においては、ふるさと研究員の派遣、里山整備のための資機材貸し出しなど、里山里海湖を保全、再生する団体の活動を支援し、活動意欲を高めてきた。

このような研究、教育・普及、実践活動に関する取組成果を踏まえ、活動の担い手確保、育成、里の恵みを利用した生業の確立、鳥獣の生息域拡大による鳥獣被害の深刻化など新たな課題に対応し、里山里海湖の保全、再生、活用を県民や企業など多様な主体と協働し、また、県民等の意見をこれらに反映させながら進めるため、中期計画を作成することとする。

2 基本理念

近年、人々の意識の変化や経済のグローバル化、多様な人材雇用などにより、異なる人種・性別・年齢・性的指向・障害など互いの個性や価値観を互いに認め合うダイバーシティという言葉をよく耳にするようになってきている。

研究所は、開設以来、本県の「生物多様性」、「生活多様性」、「経済多様性」および「景観多様性」を育み、生き物や自然環境のみならず、地域の景観、文化、生活する住民の暮らしも豊かにし、その恵みやマンパワーを活かして地域を元気にすることを基本理念としている。

(1) 生物多様性 (Bio - diversity)

多様な土地利用と人の営みの中で育まれる生き物の賑い

○生物生存の基盤となる「生物的自然環境の持続可能性」には、多様な土地利用による多様な生物（コウノトリ、サンショウウオ、イトヨ等）の保全と回復が不可欠である。

○多様な生き物が賑わう県土を県民の手で守り育てる。

(2) 生活多様性 (Lifestyle - diversity)

地域社会が育む「地域それぞれの暮らし方や生き方」

○地域の資源を活かした生業なりわい（越前水仙の栽培、三方湖の「たたき網漁」等の農林水産業）から地域を支える多様な人材が生まれてくる。

○多様な人材を生み出し、その人材が福井に活力をもたらし、社会全体を元気にする。

(3) 経済多様性 (Economy - diversity)

里山ビジネスの開拓や工夫による、地域の経済活動の活性化

○かつては、薪、萱等を生活や生業に活かすことにより、里山里海湖の管理が地域の経済や生活と結びついていた。

○現在の社会状況に合わせた形で、里山里海湖の資源（間伐材、果樹の剪定枝等）を経済活動の一環として活用することにより、自然と共生する社会とする。

(4) 景観多様性 (Landscape - diversity)

生物・生活・経済の多様性から招来される、多様な景観

○生き物が多い自然環境や元気な暮らしぶりから、棚田、そば畑、焼き鯖等、福井らしい表情が外に表れてくる。

○多様な景観を形作り、画一的な風景から脱却することにより、福井らしい里山里海湖の魅力を創出する。

3 活動および運営の方針

基本理念を踏まえ、研究所では、以下のように活動および運営を進める。
県民、自然再生団体、企業、行政等各種主体の参加および連携により、地域の個性に応じた「研究」、「教育・普及」および「実践」を総合的に進める。

特に、県民からは多世代から参加を促すとともに、地域と協働して、元気な人材の輩出やビジネス機会の創出等の地域の活性化へとつなげる「地域を元気にする実学研究の拠点」としていく。

三つの大きな柱

○ 研究【地域に貢献する実学研究（Science for society）】

里山里海湖に関する研究者が、生物多様性を守り、その恵みを人々の暮らしに結びつける様々な研究を行う。

○ 教育・普及【里山里海湖を「体験」し、「感性」を育む】

里山里海湖の自然を子どもから大人まで広く体感してもらい、その大切さを伝えるとともに、地域の保全・再生活動を担うリーダーを育成する。

○ 実践【次世代につながる持続可能な里山里海湖の保全・再生・活用】

里山里海湖の保全・再生・活用に取り組む地域や団体を支援することにより、里山里海湖を次世代へ継承する。

4 中期計画の目標

基本理念と活動および運営の方針に基づき、概ね令和5年度から9年度までを期間とした、以下の目標を掲げる。

○研究に関する目標

- (1) 研究者自らが地域に飛び込み、課題を把握し、その解決に向けた実学研究を行うとともに、研究成果を「教育・普及」、「実践」することにより、人々の暮らしや経済活動へ反映させ、地域の活性化につなげる。
- (2) 国内外の試験研究機関と連携し、研究レベルの向上を図るとともに、研究成果を国内外へ広く発信する。

○教育・普及に関する目標

- (1) 幅広い年代層に里山里海湖の恵みに触れる機会を提供し、里山里海湖を守る心を育む。
- (2) 学びの森・海湖団体など自然体験や環境教育を行う民間の団体を活性化し、活動を担う次世代の育成を支援する。
- (3) 研究成果を活かした環境教育を実施し、県民や子どもたちが里山里海湖の保全・再生について考える力を養う。
- (4) 里山里海湖の大切さを継承するため、研究所およびその周辺を、県民が気軽に集い、体験や活動ができる拠点とする。

○実践に関する目標

- (1) 自然再生団体、県民、企業、地縁団体など、多様な主体の連携による保全・再生活動を支援し、若い世代など参加する層の拡大を図る。
- (2) 里山里海湖ビジネスの展開を支援することにより、里の恵みの保全とその恵み（フナ・コイ・シジミ・イノシシ・シカ等）を利用した生業を次世代へ継承する機運を高める。

5 目標を達成するための具体的な施策

中期計画の目標を達成するため、本県の里山里海湖の特徴を考慮し、概ね以下の分野について研究を進めるとともに、具体的な施策を展開する。

(1) 研究に関する具体的な施策

① 環境考古分野の研究の推進

- ・年縞を基に、自然、歴史をひも解き、自然と人の暮らしとの関わりを明らかにする研究を行う。
- ・福井県年縞博物館と協働し、年縞を基にした研究成果を観光や教育に活用する。

② 保全生態分野の研究の推進

- ・県全域にわたる、里山里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究を行う。
- ・生物多様性の保全につながる環境配慮型の生産を普及し、里山里海湖の資源の付加価値を高める研究を行う。
- ・地域住民、自然再生団体、企業等と協働して実施する自然環境の保全・再生・活用のプロジェクト等に直接参加し、研究成果を基に活動を支援する。

③ 森里川海連環分野の研究の推進

- ・森から海にかけての生態系のつながりと人の暮らしの関わりに関する研究を行う。
- ・生物多様性の保全や活用に関する伝統的な知恵を明らかにして、鳥獣被害対策、資源の増加、防災減災対策などにつなげる研究を行う。
- ・地域住民、自然再生団体、企業等と協働して、自然と共生する地域づくりを研究成果を基に支援する。

④ 里地里山文化分野の研究の推進

- ・里に伝わる伝統的ななりわい（農法、漁法等）、文化等の資料を収集、活用して、それらの継承や担い手の確保育成、里山里海湖の資源を活かした経済活動につなげる研究を行う。
- ・地域住民、企業等と協働して、地域の特色を活かした里山ビジネスの創出等の地域づくりを研究成果を基に支援する。

⑤ 里山里海湖資源を活用した研究の推進

- ・里山里海湖資源（フナ・コイ・シジミ・イノシシ・シカ等）を有効活用して、地域活動や地域経済の活性化につなげる研究を行う。

⑥ 自然再生活動を研究により支援

- ・三方五湖自然再生協議会、北潟自然再生協議会と連携し、研究所の研究成果を活用して、その活動を支援する。

⑦ 大学・試験研究機関との連携

- ・地域が抱える課題の解決に向けた実学研究を、福井県立大学や他研究機関と連携し、実施する。

⑧ 研究成果の発信

- ・学会・国際会議等で研究成果を発表する。

（2）教育・普及に関する具体的な施策

①福井ふるさと学びの森・海湖での協働

- ・福井ふるさと学びの森・海湖において、研究者、自然再生団体、地域住民と協働して、研究、教育・普及、実践を総合的に行い、自然体験を通じた環境教育を推進する。

②福井ふるさと学びの森・海湖登録団体の次世代育成

- ・高齢化が進む福井ふるさと学びの森・海湖登録団体に高校生等が参加することで、自然ふれあい活動を提供する団体の活動に興味を持たせ、次世代の育成につなげる。
- ・福井ふるさと学びの森・海湖登録団体のネットワーク大会の開催により、登録団体のリーダー等が連携・交流する機会を提供し、登録団体の活動のレベルアップを促進する。

③ 幅広い年代層への自然体験の提供

- ・幼児、中高生等を含めた幅広い年代層に森、海、湖等多様な自然体験の機会を提供し、里山里海湖を守る心を育成する。
- ・高校生が地域に伝わる伝統漁などの里山里海湖文化を体験し、その魅力を聞き書きのとりまとめを通じて発信する。
- ・福井県立大学や他研究機関と連携し、学生を指導する。

④ 里山里海湖学校教育プログラムの拡充

- ・小中学校における理科、社会等の教科や、総合的な学習の時間等において環境教育を取り入れやすくするため、里山里海湖学校教育プログラムの内容を拡充し、各学校において実践する。
- ・研究推進員（中学校理科教員）と協力し、環境教育に係る教材作成や年縞に関する教育を充実する。

⑤ 研究成果を活かした環境教育

- ・研究内容を活かした研究員・里山里海湖相談員による出前講座や研究活動発表会の開催により、地域住民が里山里海湖の魅力の再認識を図ることを促進する。

⑥ 里山里海湖の魅力や実践活動の普及

- ・研究所において、景観や野鳥など里山里海湖の魅力を発見できる場を展開する。
- ・里山里海湖体験講座や、ふるさと研究員による体験イベントを開催し、県民の里山里海湖での活動を推進する。
- ・自然再生団体等による活動内容の発表の機会を設け、自然再生活動等を県民に広く周知する。

(3) 実践に関する具体的な施策

① 自然再生団体ネットワークの強化、担い手育成

- ・自然再生団体と他分野の民間団体との連携を促進し、自然再生の新たな担い手となる団体を確保する。
- ・福井ふるさと学びの森・海湖登録団体の技術向上のための研修会を開催。活動を担う次世代の確保、育成の方法を学ぶ。
- ・自然再生地域等において、自然共生サイトへの国による認定を推進し、それらのネットワーク化を図る。

② サポート体制の充実

- ・自然再生団体の優れた活動を表彰し、活動者の取組意欲の向上に寄与する。
- ・研究所において、身近な生き物相談コーナー等里山里海湖に関する相談窓口を継続する。

③ 地域活性化につながる里山里海湖ビジネスの展開

- ・ 里山里海湖資源、里に伝わる伝統的なりわいや文化等を活かした新商品開発、商品ブランド化を研究成果を活用して支援する。
- ・ 福井県の里山里海湖の魅力や水月湖年縞等の資源を活かした観光を促進する。
- ・ 得られた利益を保全・再生活動に還元する仕組みの構築を、研究成果を活用して支援する。

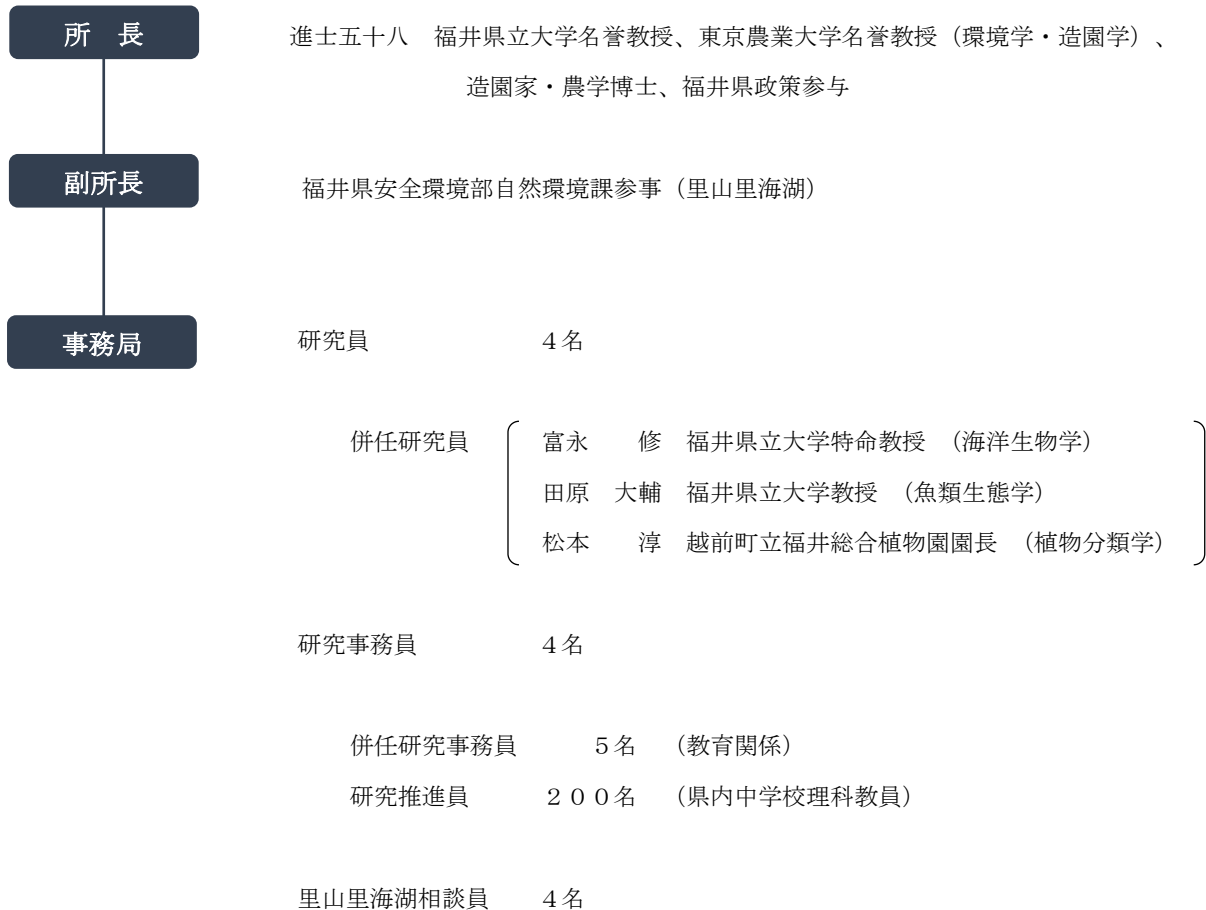
④ 元気なふるさとの里山の整備

- ・ 地域住民が企業、地域おこし協力隊等と協力して行う里地里山の保全活動を、資機材の貸出し、専門家の派遣等により支援する。特に、山際の除間伐を進めるためのウッドチップパーや炭化炉の貸し出しを行い、人と鳥獣のすみ分けによる鳥獣被害対策に貢献する。

6 組 織

「福井県里山里海湖研究所設置要綱」に基づき、平成25年10月30日付で設置

組織図



○研究員

里山里海湖の保全・再生・活用の研究、教育・普及、実践を行う。

○研究事務員

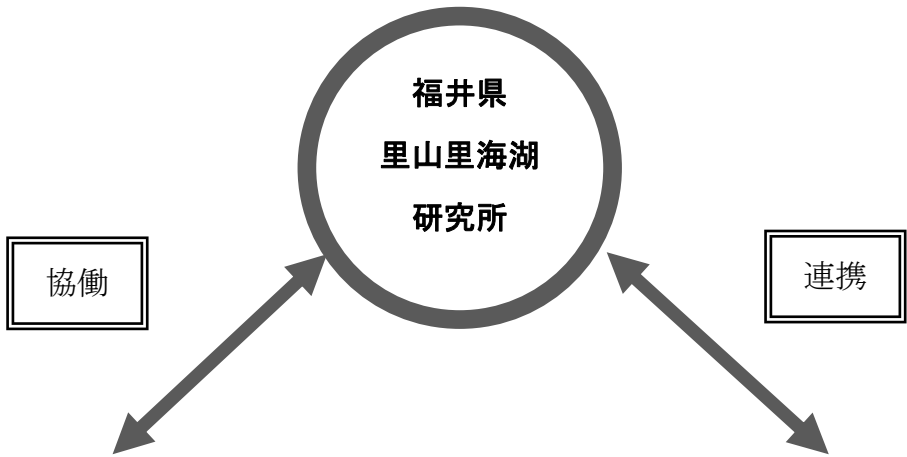
研究の普及、環境教育の推進、活動・実践の支援を行う。

○研究推進員

研究員の研究活動が円滑に進むよう協力する。

※なお、研究所の活動および各研究員の研究について、専門的な知見が必要になった場合、有識者に対して随時助言を求めることができる。

連携・協働体制



- 県内の機関等**
- 国立若狭湾青少年自然の家
 - 若狭町立若狭三方縄文博物館
 - 越前町立福井総合植物園
 - 県内市町
 - ・自然史博物館、民俗資料館等
 - ・教育委員会
 - 県試験研究機関・教育機関等
 - ・年縞博物館
 - ・自然保護センター、海浜自然センター
 - ・歴史博物館、若狭歴史博物館
 - ・農業試験場、水産試験場、総合グリーンセンター
 - ・教育研究所、嶺南教育事務所
 - ・奥越高原青少年自然の家、芦原青年の家、鯖江青年の家、三方青年の家等
 - 三方五湖自然再生協議会
 - 北潟湖自然再生協議会
 - 福井ふるさと学びの森・海湖登録団体
- 県内の専門家**
- ふるさと研究員

- 大学**
- 福井県立大学
 - 福井大学
 - 立命館大学
 - 東京大学
 - 東京農業大学 等
- 機関・団体等**
- SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ
(国連大学高等研究所)
 - SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク
(石川県・福井県)

福井県里山里海湖研究所

発行日 2023. 4. 1

〒919-1331

福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-31-1

Tel:0770-45-3580 Fax:0770-45-3680

Mail:satoyama@pref.fukui.lg.jp